

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 人生をどのように生き、どのように送るかの決定権は入居者にある。日々のかかわりを通じて、入居者の思いの把握と情報共有に努め、入居者の思いを尊重した支援への取り組みが必要である。	入居者が悔いなく日々を充実して送ることができる環境づくりに努める。入居者の「生活歴」そして「今」を深く知り、心を許し合い、入居者が安心して生き生きと暮らせる環境を整える。	認知症ケアの勉強会等を通じ、重度化や終末期に向けての多様な支援のあり方や、当施設における援助の指針を確立する。(重度化を自然なものとして捉える。)職員個々のレベルアップと意識改革、家族や地域、医療を含めたチームワークの確立に努める。そのための話し合いの機会を多く持つ。	1年
2	4	運営推進会議を活かした取り組み 当施設の運営推進会議には地域の方の参加が少なく、単調な会議となっている。多種多様な会議のあり方や既存の考え方にとらわれないで参加者を募り、柔軟に対応していく事が課題である。	場所・参加者・議題等を見直し、入居者の暮らしを中心に、様々な視点での活発な意見交換の場となるよう努める。	近隣商店や交番、消防署・郵便局・公民館職員、ボランティアや体験学習でつながりのある地域の方や教師の方等、参加を呼びかけていく。また、何回かに1回は会議の場を移し、そこで地域の方と交流しながらの会議の形も探っていく。単なる活動報告に終わらず魅力的かつ発展的な議題選定に努める。	1年
3	37	災害対策について 避難訓練時に地域住民の参加・見学が得られるような取り組みがない。また、地域協力体制の構築に向けて、防災協定や地域連絡網の充実を図る必要がある。	災害対策を地域連携・協力のもと行うことによって、地域の中に溶け込み、役割を発展させる。また、身のある継続的な地域交流を行い、信頼関係の構築を目指す。	年2回の防災訓練時には消防・警察の協力を依頼し、近隣住民の参加を呼びかける。近隣のスーパー・薬局・公民館等と連携して、非常災害時の防災協定や地域連絡網を作成し活用できるようにする。また、地域包括支援センターや民生委員等からの協力を得て、地域の災害・安全対策及び高齢者の危険防止等への広報に役立てるよう努める。	1年
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。